

2023年8月6日
宮崎中部教会平和聖日
牧師 乾元美

イザヤ書 52：7～10

マタイによる福音書 5：9

「平和を実現する人々は幸い」

【招詞】詩編 29：2

【讚美歌】25「父、子、聖霊に」

【詩編交読】詩編 32 編

【赦しの宣言】イザヤ書 55：7「主に立ち帰るならば、主は憐れんでくださる。

わたしたちの神に立ち帰るならば／豊かに赦してください。」

【讚美歌】11「感謝にみちて」

【祈祷】

【聖書】イザヤ書 52：7～10、マタイによる福音書 5：9

【説教】「平和を実現する人々は幸い」

<平和聖日>

日本基督教団の教会では、8月の第一主日を「平和聖日」として、礼拝をささげます。

8月は、第二次世界大戦における、6日の広島への原爆投下（これはまさに今日の日付です）、また9日の長崎への原爆投下、そして15日の終戦を覚える月だからです。

そして、今の時代を生きるわたしたちは、ロシアのウクライナ侵攻のことを考えないわけにはいきません。昨年からは始まり、一年以上経った今も攻防が続いています。

今日のこの日も、傷つき、悲しみ、怒り、怯えている人々がいます。たくさんの方たちが日常生活を失い、愛する人を失い、平安を失っています。

また、その他にも世界では、迫害や暴力、内戦など、争いや暴力に苦しめられる人々が、いつもどこかにいるのです。

しかし、日本の小さな一市民であるわたしたちにとって、これらの遠く離れた、国と国との大きな争いごとは、どこか手の届かない問題のように感じられるかも知れません。

自分には何が出来るだろうか。そう考えることがあっても、結局は、ここで自分には何も出来ない、という思いになって、無力感、絶望感に覆われます。

確かに、中には、現地に飛んで行ったり、必要な支援を手配したり、具体的に働いて下さる方々もおられますが、それは中々、誰にでも出来ることではありません。

わたしたちの多くは、どこかで無力感を覚えつつ、このような戦争や争いを、一日も早く終わらせてくださいと、そう神さまに祈っているのではないのでしょうか。

<あなたが平和をつくる>

しかし、今日の箇所、イエスさまはこう言われます。

「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。」

この御言葉が語られたのは、山上の説教と呼ばれる場面です。イエスさまは、ご自分に従ってきた弟子たち、また従ってきた多くの群衆に対して、この御言葉を語られました。

イエスさまに従って集まってきた者たち。それはつまり、教会に集う、わたしたちのことでもあります。この御言葉は、まさにわたしたちに語られているのです。

「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。」

イエスさまは、あなたがたが平和を実現するのだ。あなたがたが平和をつくるのだ。そう言うておられるのです。

これがもし、「平和を願う人々は、幸いである」というのであれば。そうだ、それはわたしだ。確かに、わたしは平和を願っている。そう堂々と言えるでしょう。

あるいは、これがもし、「平和を与えられる人々は幸いである」とか、「平和に生きる人々は幸いである」とかだったら。ぜひ、そうありたい、そう生きたいと、心から願い求めるでしょう。

でも、イエスさまは「平和を実現する人々は、幸いである。」と言われました。平和をつくる人は、幸いだ、と。

平和をつくる人とは、平和に暮らす人、平和を楽しんでいる人、争いごとを避ける人、ではありません。平和をつくる人は、平和をつくるために、平和のないところへ行かなければなりません。争いを治めるために、争いのあるところへ。平安をもたらすために、不安の満ちているところへ、入って行かなければならないのです。

これは、とても困難な御言葉です。わたしたちは、確かに平和を願っていますけれども、それは実は、まず一番に、自分自身の平和や、安全や、穏やかさを願っているからです。

平和を実現する人になる。平和をつくる人になる。いったい、それはどうやって可能になるのでしょうか。

イエスさまが、「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる」と言われたように。まさにそれは、「神の子」のような人でなければ、出来ないことなのではないでしょうか。

<平和のつくり方？>

わたしたちが知っている、この世における、平和のつくり方。争いの終わらせ方。それは、強い力で圧倒することです。

イエスさまの時代の頃、実際に「平和を実現する人」「神の子」と、自分のことを呼ばせている人々がいました。それは、時のローマ皇帝や、支配者、権力者たちです。

彼らは、圧倒的な武力で各地を治めることによって、確かに広大な地域において、戦争のない、つかの間の平和をもたらしたかも知れません。しかし、その平和は、剣を突きつけることによって、保たれている平和でした。

しかしイエスさまは、そのような、世のすべての力と権力を手にしているような王さまに対して、「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる」と言われたのではありません。

むしろ、その正反対の者たち。まったく無力で、貧しく、細々と日常生活を送っているような、そんな群衆の一人一人に対して。わたしたちのような者に対して。あなたがたが「平和を実現する人々」だ。あなたがたが、平和をつくり、「神の子」と呼ばれるのだ。そう言われたのです。

<争いの源>

でも、本当にわたしたちは、そう呼ばれることが出来る者でしょうか。どうやって、平和をつくりだすことが出来るでしょうか。

自分の歩みを振り返っても、わたしたちは、争いを生むことの方が得意かも知れません。

また、争いを生むということではなくても、自分の平和のために、自分の安全・安心を守るために、他の人を見捨てること。無視すること。無関係でいようとすること。また、分断をつくったり、それに加担したり、その状況に甘んじること。そのようなことをしているかも知れません。それは、平和をつくることからは、ほど遠い態度です。

なぜ、わたしたちは、平和に、隣人と共に歩むことが、出来ないのでしょうか。

…わたしたちが争いや、分断ばかり起こすのは。また、他の人を見捨てたり、無関心でいたりするのは。また、憎しみや、妬みや、敵意を抱くのは。わたしたちがいつも、自己中心的な生き方を求めるからです。自分の人生を、自分の思うように歩みたいと願うからです。

そして、そこに、わたしたちすべての人間が抱えている、争いの原因、罪があります。

本来、神さまに造られたわたしたちは、自分中心ではなく、神さまを中心にして生きるのが、最も自然で、最も平安な生き方です。わたしたちは、神さまに造られた者として、神さまを主人として、神さまの御心に従って歩むことが、本来の生き方です。

その、わたしたちが従うべき神さまの御心、つまり、神さまがわたしたちに求めておられることは、神さまを愛すること。そして、自分のように隣人を愛することです。

この神さまの御心に、すべての者が従うなら。わたしたちは、共に神さまを礼拝し、また人間同士は互いに相手を重んじ、愛し合い、共に生きていくことが出来るでしょう。

でも、わたしたちは、神さまに従うよりも、自分の思い、自分の心に従おうとしてしまいます。その方が、自分にとって、楽しく、自由なように思えるからです。

でも、皆がそのように、自分を主人として、自分のことだけを考えて生きようとするならば。そこには、他の人との摩擦が起こり、争いが起こり、競争が起こり、分断が起こってくるのです。

そのように、すべての争いや、敵対、分断の根本は、神さまに従おうとしない、わたしたちの罪にあるのです。

まず、わたしたちは、この自分の罪に気づかなければなりません。

わたしたちの、自分勝手な、自己中心的な歩みが、神さまに敵対し、背き、逆らうものとなっているということ。それゆえに、わたしたちは、自分の思い通りに生きようとして、自分で自分を守ろうとしたり、自分の権利や利益を確保しようとして、互いに争い、競い、傷つけ合っているということです。

わたしたちは、平和を求めるのであれば、何よりも先に、自分の罪を悔い改めて、神さまとの平和、神さまとの和解を、求めなければならないのです。

<十字架へ向かうイエスさま>

しかし、わたしたちの罪は深刻で、自分ではどうすることも出来ません。

だからこそ、神さまは、ご自分の独り子、唯一のまことの神の子、イエスさまを、わたしたちに遣わして下さったのです。そして、このまことの神の御子が、弟子たちの前に立ち、群衆の前に立ち、わたしたちの前に立ち、語られるのです。

「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。」

イエスさまは、この山上の説教を語られた後、すべての者の罪を償って下さるために、十字架への道を歩んでいかれます。

わたしたちのすべての罪を、神さまへの背きを、争いや分断の根本を、この方がすべて担って下さるのです。神さまに対する反抗を、隣人に対する敵意を、イエスさまが、その十字架にすべて引き受けて下さるのです。

イエスさまが、「幸いである」とわたしたちに語りかけて下さるのは。わたしがあなたたちの罪を担う。わたしが十字架の死によって、あなたの罪を贖う。あなたは、わたしの十字架によって、神さまからの罪の赦しを得て、神さまとの間に平和を得ることができ、そのゆえに、隣人との間にも、平和を実現する者となることが出来る。だから、幸いだ、と言って下さるのです。

そして、父なる神さまは、わたしたちの罪を担い、わたしたちが受けるべき裁きを引き受け、十字架で死んで下さった御子イエスさまを、死者の中から復活させられました。

それは、この方において、わたしたちの罪が完全に贖われた、ということを示して下さるためです。そして、わたしたちに、新しく神さまと共に生きる命を与えると、約束して下さるためです。

イエスさまは、まさに、和解のために、神さまの方から、わたしたちに差し伸べられた手です。

わたしたちが、罪を悔い改めて、十字架と復活のイエスさまにおいて差し出された、神さまの和解の御手を握り返すなら。神さまは、それで、わたしの罪を赦して下さいます。それで、わたしを受け入れて下さいます。それで、罪人であったわたしを、神の子として下さり、すべての恵みを受け継がせて下さり、神さまと共に生きる者として下さるのです。

わたしたちは、罪を赦していただくために、何もしていません。何も出来ないのです。ただ、イエスさまの十字架によって、自分の罪に気づかされ、一方的に差し出された、神さまの和解の手を、神さまとの平和を、受け取るだけなのです。

しかし、ここから、わたしたちは自己中心的な罪から解放され、神さまの御心を知り、神さまに従っていく、新しい歩みを始めることが出来ます。

「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。」

そのための、わたしたちの歩みは、まず自分が、イエスさまによって罪を赦されること。まず自分が、神さまとのまことの平和の中に置かれること。そこから、始まるのです。

<平和をつくる>

わたしたちは、そうして神さまとの平和に生かされていく中で、まことの平和が何であるかを知らされていきます。神さまが、わたしの平和をどのように実現して下さったのか、どのように平和をつくれればよいかを、教えられていきます。

イエスさまは、わたしたちを力でねじ伏せ、恐怖で支配し、暴力で従わせて、平和を与えたのではありませんでした。

イエスさまは、わたしたちに仕え、ご自分の命を差し出し、死ぬまで愛し抜いて下さることによって、わたしたちを生かし、わたしたちに神さまとの平和を与えて下さったのです。

だからわたしたちも、このイエスさまに従うことによって、まことの平和を実現する人となることが出来るのです。

イエスさまにおいて、わたしたちは知らされています。平和とは、争いがない、戦争がない、という状態のことではなく。積極的に、相手の罪を赦すこと、愛すること、生かすこと、そして、共に生きていく、ということなのです。

そうであるなら、わたしたちは、今も戦争が止まない世界を前にして、平和のために、何も出来ない、などとは言ってられません。

まず、自分の中に、争いの根っこを無くすこと。神さまに背く罪を赦していただき、自己中心的な歩みをやめて、神さまの御心に従って、歩もうとすることから始めるのです。

そうして今、わたしがここで、世界の隅っこから、平和をつくっていくのです。自分に与えられた隣人を、赦そうとしていく。愛そうとしていく。共に生きていく。それは、世界全体の平和のための、とても重要な一歩なのです。

なぜなら、ここにいるわたしが、隣人との間に、小さな平和をつくることさえ出来ないのなら、どうして世界の平和をつくることが出来るのでしょうか。

でも、一人一人が、神さまとの平和を得て、罪を悔い改めて、隣人との平和を築いていくならば。赦し合い、愛し合い、共に生きようとしていくなら。

わたしたちは、世界に平和をもたらして下さい、という神さまへの祈りと共に、自分もまた、その神さまの平和が、地上に実現するために、神さまの御心がこの地になるために、働くことが出来るのです。

<共にいて下さるイエスさまによって>

しかし、相手を赦すこと、敵対する者を受け入れること、こちらから、和解の手を差し伸べること。それは、どれほど、わたしたちにとって、苦痛で困難なことでしょうか。

平和をつくるために、混乱の中に入っていくこと。自分の平安を置いて、争いの中へ入っていくこと。罪の満ちているところに、神さまの平和を告げに行くこと。それは、どれだけ勇気がいることでしょうか。

わたしたちは、自分の力で、そのことを成し遂げることは出来ません。しかし、神さまにはお出来になります。神さまの御力に頼るなら、それを行うための力が与えられます。

わたしたちには、わたしにまことの平和を与えるために、すべてを成し遂げて下さったイエスさまが共にいて下さいます。

イエスさまは、世の終わりまでわたしたちと共にいると、約束して下さいました。この方が、わたしたちのあらゆる困難も、恐れも、不安も、苦しみも、すべて共に担って下さり、最後まで、支え、守り、導いて下さり、わたしたちに平和の道を歩ませて下さるのです。

「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。」

これは、イエスさまの宣言です。わたしたちは、幸いです。わたしたちは、イエスさまによって、神さまとの平和を与えられているからです。そして、神の子とされたのだから、神さまの御力によって、平和を実現する人となることが出来る。神さまの御心に従って生きることが出来る。そう言われているのです。

わたしたちは、今、ここに、神さまの平和を実現するために、遣わされています。

そのようなわたしたちの歩みは、たとえ、この世の争いや、不安や、困難の中に入っていかなければならないとしても、イエスさまと共にあって、平和を実現してゆく、まことに幸いな、祝福に満ちた、歩みなのです。

【お祈り】

天の父なる神さま

イエスさまの十字架と復活によって、わたしたちに神さまとの平和を与えて下さり、ありがとうございます。あなたに、愛され、赦され、神の子とされた者として、わたしたちもまた、平和を実現する者として下さい。ここから、平和をつくる者とならせて下さい。

そして、イエスさまにある平和と、隣人との平和が、世に満ちていきますように。

このお祈りを、平和の主イエスさまの御名によってお祈りいたします。アーメン

【讃美歌】 393 「こころを一つに」

【信仰告白】 ニカイア信条

【聖餐】

【讃美歌】 73 「主よ、平和のうちに」

【十戒】

【献金】 65-1 「今そなえる」

【主の祈り】

【祈祷】

【讃美歌】 26 「グローリア、グローリア、グローリア」

【祝福】 主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、
あなたがた一同と共にあるように。アーメン